

犬由来メチシリン耐性 *Staphylococcus pseudintermedius* (MRSP)

日本の病気の犬由来コアグラマーゼ陽性ブドウ球菌はほとんどが *Staphylococcus pseudintermedius* (SP) で、そのうちMRSP*が約半分を占めました。

*ペニシリン系抗菌薬のメチシリンに耐性を示すものをMRSP、感受性を示すものをMSSPという。

☑SPは犬の常在菌ですが、皮膚や尿路感染症の原因菌となります。

- 存在しても病気の原因かは正確な診断が必要。
- その他の疾患への抗菌薬の投与によっても影響を受ける(耐性になる)可能性。

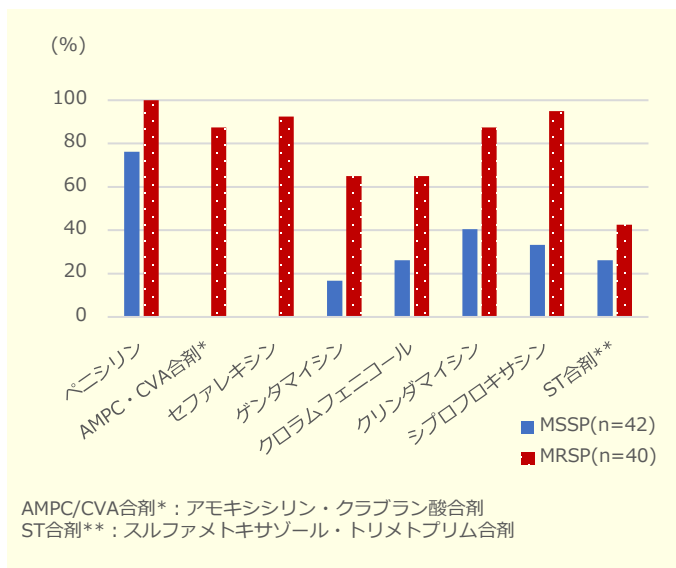
☑MRSPは多剤耐性菌です。

- フルオロキノロン系にも高率に耐性。
- 有効な抗菌薬を選択・使用するためには感受性試験の実施が重要。

☑これ以上耐性化を進めないため、抗菌薬以外の治療法を検討しましょう。

- 皮膚や耳では洗浄や消毒を選択肢に。
- 臨床症状がない細菌尿では、治療しないことを選択肢に。

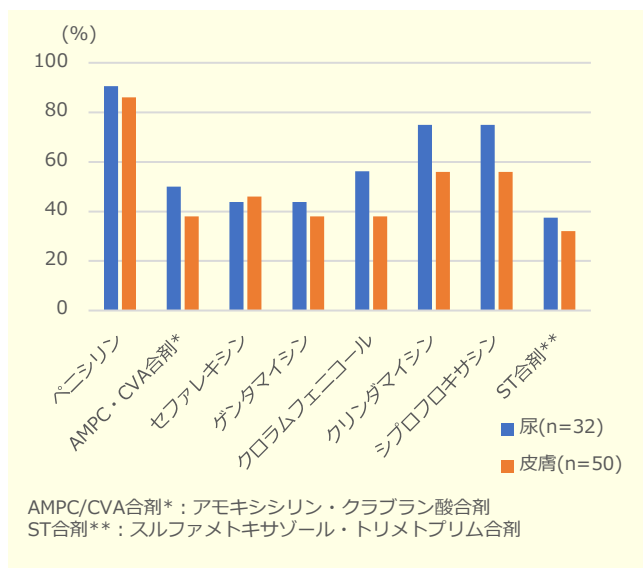
図1：病気の犬由来SPのMRSP/MSSP別耐性率 (2024)



- MRSPの方がMSSPより多くの薬剤に対する耐性率が高く、耐性のパターンは異なる。

→治療に際しては感受性試験が非常に重要。

図2：病気の犬由来SPの採材部位 (尿/皮膚) 別耐性率 (2024)



- 皮膚由来SPも尿由来SPも多くの薬剤に高い耐性率を示す。

→抗菌薬以外の治療も検討する必要。

愛玩動物の慎重使用
の手引きはこちら↓

抗菌薬一覧はこちら
(2023年更新) ↓



〇お問い合わせ〇

動物医薬品検査所 動物分野AMRセンター
mail: nval_amr@maff.go.jp

